

令和7年度使用教科用図書調査専門委員会 調査研究報告書 観点・着眼点（ 種目名 社会・公民的分野 ）

観 点		着 眼 点
1	学習指導要領との関連	民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて理解を深めるとともに、現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにするための工夫・配慮の程度はどうか。
		社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力を養うための工夫・配慮の程度はどうか。
		現代社会に見られる課題を主体的に解決しようとする態度を身に付けるとともに、国民主権を担う公民として、自国を愛し平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めるための工夫・配慮の程度はどうか。
2	「コンパスぷらん（第4期名古屋市教育振興基本計画）」との関連	「自分に合ったペースや方法で学ぶ」ことができるような工夫・配慮の程度はどうか。
		「多様な人と学び合う」ための工夫・配慮の程度はどうか。
		「夢中で探究する」ための工夫・配慮の程度はどうか。
3	内 容 (1) 内容の選択	人権の尊重や教育の政治的中立に関する配慮の程度はどうか。
		地理、歴史との関連が分かりやすく示されているとともに、日本の伝統・文化や社会の変化に適応した内容の適切さはどうか。
	(2) 内容の程度	日常生活・実社会に関連付けられるような記述や教材の充実についての程度はどうか。
	(3) 内容の構成	補充的な学習や発展的な学習の内容の扱いやすさや分量の適切さはどうか。
4	タブレット端末の活用	タブレット端末を活用して学習の効果を高めるための工夫の程度はどうか。
5	表記・表現及び使用上の便宜等	本文と注・写真・地図・年表・図表等の関連付けの適切さはどうか。また、目次・索引・注・凡例・諸表・資料等の適切さはどうか。
6	印刷・造本等	「ユニバーサルデザイン化の観点から印刷の鮮明度、文字の大きさ、書体、色彩等」、「造本の堅ろうさや体裁」、「再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮」など印刷造本等の工夫の程度はどうか。

令和7年度使用教科用図書 調査専門委員会 調査研究報告書（種目名 社会・公民的分野 1／2）

発行者		東京書籍		教育出版		帝国書院	
観点		評価	特徴	評価	特徴	評価	特徴
1	学習指導要領との関連	○	「現代社会と私たち」では「私たちが生きる現代社会にはどのような課題があるのか」という「探究課題」を設定し、各節で解決のための「探究のステップ」が配置され、課題研究を通して基本的な知識・技能が定着するような構成になっており、優れている。	○	「私たちの暮らしと現代社会」では「学習のはじめに」のページで学習内容に見通しをもち、章末は、「学習のまとめと表現」を活用して、基礎的・基本的な知識の定着を図るような構成になっており、優れている。		第1部「現代社会」では、問いを軸にした単元を構成し、協働的に学習する場面を設定することで、基礎的・基本的な知識・技能が身に付けることができるよう編集されている。
			「現代社会と私たち」では、問題解決的な構成にすることで、思考力・判断力・表現力等を育成することができるように編集されている。	○	「私たちの暮らしと現代社会」では、単元を通して課題を捉え、見通しを立て、解決していく力の育成を図り、現代社会の見方・考え方を働かせた学習を通して思考力・判断力・表現力等の育成が促されるよう、編集に工夫が見られる。		第1部「現代社会」では、現代社会の諸課題について、社会参画を疑似体験できる学習や多様な立場からの対話的な活動を通して、主権者として必要な態度を育成できるよう編集されている。
		○	終章「よりよい社会を目指して」では、現代の諸課題を自分ごととして捉え、よりよい社会と豊かな人生の創造に向けて、主体的に社会参画しようとする態度を養うことができるよう、編集に工夫が見られる。	○	終章「私たちが未来の社会を築く」では、主権者として現代社会を生きていく上で必要な考え方や生き方を学習することができるよう、編集に工夫が見られる。		第5部「課題探究学習」では、現代社会の諸課題について、社会参画を疑似体験できる学習や多様な立場からの対話的な活動を通して、主権者として必要な態度を育成できるよう編集されている。
2	「コンパスぶらん（第4期名古屋市教育振興基本計画）」との関連	○	「個人の尊重と日本国憲法」では、各ページで導入資料や学習課題・本文・資料・チェック&トライを配置することで、見通しをもって学習に取り組むことができるように工夫されている。		「個人を尊重する日本国憲法」では、各ページで導入資料や中心資料、学習課題が配置されており、見通しをもって自分にあったペースや方法で追究できるようになっている。		「日本国憲法と私たち」では、「学習の前に」「学習活動」「学習を振り返ろう」と段階的に単元が構成されており、特に、「学習の前に」で単元の学びを見通すことができるようになっている。
		○	「個人の尊重と日本国憲法」では、多様な意見に触れながら学習を深めることができるように「みんなでチャレンジ」や章末で具体的な事例を想定した「深めよう」が構成されており、優れている。		「個人を尊重する日本国憲法」では、「学習のまとめと表現」を活用して各章の振り返りができ、自分の言葉で表現する活動や、意見を交換して考えを深めることができるよう構成されている。		「日本国憲法と私たち」では、現代社会の諸課題について、社会参画を疑似体験できる学習や、多様な立場からの対話的な活動ができる内容となっている。
			「個人の尊重と日本国憲法」では、章の初めに見方・考え方を働かせて追究することができる「探究課題」と、「まとめの活動」に思考ツールを活用した学習の振り返りができる内容が設定されている。	○	「個人を尊重する日本国憲法」では、各節で設けられている「問い」を見方・考え方を働かせながら探究することを通して、資質・能力を着実に育成する内容になっており、優れている。		「日本国憲法と私たち」では、社会参画を疑似体験できるシミュレーション学習が設置されており、自分事として夢中で探究できる内容となっている。
3	内容		「個人の尊重と日本国憲法」では、インクルージョンの観点から、異文化を理解し多様な人々との共生について考えることで、自他を敬愛し人権を尊重する態度を養うことができる内容となっている。	○	「個人を尊重する日本国憲法」では、社会は多様な人々から成立していることを理解し、よりよい社会の在り方をさまざまな立場から考えようとする態度を養うことができる内容になっており、優れている。		「日本国憲法と私たち」では、「未来に向けて」において、人権に関する豊富な記述や資料を通して共生社会を目指して自他を大切にすることや、平等・生命尊重の精神を養うことができるよう工夫されている。
			選挙権年齢や成年年齢の引き下げを受けて、「18歳へのステップ」が設定され、選挙の流れや契約の注意点を理解できるようになっている。		持続可能な開発目標や我が国の領土問題から、日本や私たちが国際社会平和の実現に向けて果たす役割について考察する内容となっている。		選挙権年齢や成年年齢の引き下げを受けて、「18歳への準備」が設定され、メディアリテラシーや金融の注意点を理解できるようになっている。
		○	「環境・（資源・）エネルギー」「人権・平和」など5つのテーマで、3分野の視点から考察する課題が取り上げられ、分かりやすく示されている。選挙権年齢や成年年齢の引き下げを受けて、「18歳へのステップ」が設定され、選挙の流れや契約の注意点を理解できるようになっている。	○	現代史及び人権思想史に関わる年表や地図、世界各地の人々の生活の様子を表す写真などを掲載することで、3分野の関連が図られ、分かりやすく示されている。持続可能な開発目標や我が国の領土問題から、日本や私たちが国際社会平和の実現に向けて果たす役割について考察する内容になっており、優れている。	○	「小学校・地理・歴史・他教科との関連」を設け、本文と関連するキーワードを掲載することで、3分野の関連が図られ、分かりやすく示されている。選挙権年齢や成年年齢の引き下げを受けて、「18歳への準備」が設定され、メディアリテラシーや金融の注意点を理解できるよう、よく工夫されている。
	(3) 内容の構成	○	「現代の民主政治と社会」では、「住民参加の拡大と私たち」など、日常生活に関連する身近な事例を取り上げることで、自分が生活する社会への関心を高めることができるよう配慮されている。		「私たちの暮らしと民主政治」では、「公民の窓」「LOOK!」などを通して、学習内容と実生活とのつながりを考えることができるように配慮されている。		「政治と私たち」では、学習内容を実社会への場面に置き換えて考える「アクティブ公民」を通して、実感を伴って理解できるように配慮されている。
4	タブレット端末の活用	○	「個人の尊重と日本国憲法」では、Dマークや二次元コードを付け、導入クリップ・展開・まとめてインターネットを効果的に活用して学習できる内容となっている。		「個人を尊重する日本国憲法」では、章の最初に「まなびリンク」という二次元コードを付け、学習に役立つ情報をインターネットを通して活用できるようになっている。		「日本国憲法と私たち」では、章の最初と最後に二次元コードを付け、教科書資料や学習動画、自地図等を活用できるようになっている。個別最適な学びを支援するコンテンツとなっている。
5	表記・表現及び使用上の便宜等	○	平易な表現で、用語の使用が適切である。人名・地名・国名等は必要部分にルビを振り統一した表記になっている。巻頭には課題解決的な学習のための教科書の使い方が活動ごとに整理され、巻末には「世界の現状」「参考法令集」「用語解説一覧」が掲載されており、工夫されている。		漢字・仮名遣い・人名・地名・国名等の用語の使用が適切であり、平易な表現になるよう配慮されている。巻頭にはノートづくりや思考ツールの使い方についてまとめられ、巻末には「日本国憲法」「諸法令集」のほか、「用語解説」「欧文略称」などが掲載されている。		平易で分かりやすい文章の表現となっている。また、人名・地名・国名等は統一した表記となっている。巻頭には、教科書を活用した学び方や現代社会の見方・考え方など、主体的に学ぶための方法が示され、巻末には法令の条文などが掲載されている。
6	印刷・造本等		文字は適切な大きさであり、見開きの左右で本文の高さをそろえ、資料の掲載部分を、地色を敷いて区別することで、読みやすくなるように工夫されている。ユニバーサルデザインフォントを使用している。		印刷は鮮明で図や表は適切な大きさで配置され、文字の大きさと行間のバランスをとることにより読みやすくなるように工夫されている。ユニバーサルデザインフォントを使用している。		印刷は鮮明であり、グラフは同一資料の範囲が判別しやすいよう地色を敷いて区別し、折れ線グラフや棒グラフは読み取りやすいよう背景を白色にしている。文字は読みやすいユニバーサルデザインフォントを使用し、配色は色覚特性に配慮した識別しやすい色づかいとなるよう工夫している。

※ 着眼点ごとに、特に優れている教科書には評価の欄に○をつけています。

令和7年度使用教科用図書 調査専門委員会 調査研究報告書（種目名 社会・公民的分野 2／2）

発行者		日本文教		自由社		育鵬社	
観点		評価	特徴	評価	特徴	評価	特徴
1	学習指導要領との関連		「私たちが生きる現代社会」では、見開きごとに学習課題を提示し、社会的な見方・考え方を働かせながら追究することを通して、基礎的・基本的な内容が定着するような構成になっている。		「個人と社会生活」では、章の扉に学習内容の概要をつかむ課題を提示し、章末に重要語句の一覧を掲載することで、基礎的・基本的な内容が定着するような構成になっている。		「私たちの生活と現代社会」では、章初めの「入り口」で学習内容が説明され、章末の「学習のまとめ」で重要語句の確認を通して、基礎的・基本的な内容が定着するような構成になっている。
			「私たちが生きる現代社会」では、課題解決に迫るために「見方・考え方」コーナーを設定し、「アクティビティ」を通して、見方・考え方を働かせながら追究することを通して、思考力・判断力・表現力等が育成できるよう編集されている。		「個人と社会生活」では、「多角的な観点」「合意の仕方」といった、公民としての見方・考え方を働かせるコーナーを設定し、公民学習における思考力・判断力・表現力等が育成できるよう編集されている。		「私たちの生活と現代社会」では、現代社会の諸課題に関する幅広い知識と教養を身に付け、多面的・多角的に思考・判断・表現力等を養うことができるように編集されている。
			「私たちが国際社会」では、現代の諸課題を自分ごととして捉え、よりよい社会と豊かな人生の創造に向けて、主体的に社会参画しようとする態度を養うことができるよう編集されている。		終章「持続可能な社会を目指して」では、我が国と郷土を愛する態度や近隣諸国との関わりという視点を重視しており、現代社会の諸課題について自ら考え、その意識を高めていけるように編集されている。		終章「よりよい社会を目指して」では、地理・歴史の学習を踏まえ、家族や地域社会、国家、国際社会との関係を自分ごととしてとらえることで、公民的資質の基礎を養うことができるよう編集されている。
2	「コンパスぶらん（第4期名古屋市教育振興基本計画）」との関連		「個人の尊重と日本国憲法」では、章において「章の問い」「説の問い」が設定され、何をどのように学ぶのか見通しをもって学習に取り組むことができるようになっている。		「個人と社会生活」では、各ページが「つかむ」「調べる」「まとめる」段階で構成されており、見通しをもちながら自分にあったペースや方法で学習に取り組むことができるようになっている。		「私たちの生活と政治」では、各ページが「つかむ」「調べる」「まとめる」段階で構成されており、見通しをもちながら自分にあったペースや方法で学習に取り組むことができるようになっている。
			「個人の尊重と日本国憲法」では、「チャレンジ公民」を設定し、話し合い活動や資料を読み取る活動を通して、多様な人と学び合うことができるよう構成されている。		「個人と社会生活」では、「もっと知りたい」「アクティブに深めよう」が適切に配列され、多様な人と学び合うよう構成されている。		「私たちの生活と政治」では、「学習を深めよう」や対話や調査を促す「やってみよう」を設けて、多様な人と学び合うことができるような学習となるよう構成されている。
			「個人の尊重と日本国憲法」では、「チャレンジ公民」を設定し、社会の課題に向け、考察・構想する内容となっており、夢中で探究できるように工夫されている。		「個人と社会生活」では、「アクティブに深めよう」において、社会的な見方・考え方を働かせながら追究したり、よりよい未来を構想したりする活動が示されている。		「私たちの生活と政治」では、見開きに示されている「探究」について、社会的な見方・考え方を働かせて追究することを通して、資質・能力を育成するよう選択されている。
3	内容		「個人の尊重と日本国憲法」では、人権に関する豊富な記述や資料を通して、共生社会を目指して自他を大切にすることや平等・生命尊重の精神を養うことができるよう工夫されており、優れている。		「日本国憲法と立憲的民主主義」では、「総合的な安全保障問題を考えよう」といった国家の安全保障問題を取り上げるなど、近隣諸国との関わりからの視点から人権の尊重について考えることができる内容となっているが、手立てが十分ではない。		「私たちの生活と政治」では、日本の安全保障政策を積極的に取り上げるなど、人権に関する豊富な記述や資料を通して、自他を大切にすることや平等・生命尊重の精神を養えるような構成にはなっているが、手立てが十分ではない。
		○	パレスチナ問題やロシアによるウクライナ侵攻といった今日的な諸問題や社会の変化が「公民＋α」で理解することができるようになっている。		国旗・国歌に関する話題や領土問題、日本人拉致問題などの国の問題や、「4R」などの環境問題等、社会の変化に対応した内容が選択されているが、近年大きく変化した内容に乏しい。		差別に関する問題や日本人拉致問題、国際社会での人権問題等の内容が選択されているが、近年大きく変化した内容に乏しい。
			「私たちの課題」として、持続可能な社会の実現に向けて、3分野の視点から考察・構想する学習活動が取り上げられ、分かりやすく示されている。		我が国の領土問題や安全保障については歴史的分野と、序章「現代日本の自画像」では地理的分野と相互に内容の関連が図られ、分かりやすく示されている。我が国の優れた先端技術や伝統的工芸品、娯楽作品などの具体例を通して、経済大国、科学技術大国、文化大国であることを理解できる内容となっている。		各章に「入り口」と「これから」を設置することで、「他人ごと」を「自分ごと」としてとらえる工夫がなされている。日本の伝統文化を調べる活動を通して、郷土の伝統文化に誇りをもち、守っていくとともに、新たな文化を創造する態度を養える内容となっている。
4	タブレット端末の活用		「国民主権と日本の政治」では、「明日に向かって」「チャレンジ公民」において、学習内容と実生活とのつながり考えることができるように配慮されている。		「地方公共団体の仕組みと課題」では、学習した内容を生かして、実社会の諸問題について発展的に考察できるように、「やってみよう」が適切に配置されるなど配慮されている。		「地方自治と住民」では、学習した内容を生かして、日常生活や実社会でどのように関わって生きていくか考えることができるよう「これから」が配置されるなど配慮されている。
			「個人の尊重と日本国憲法」では、見開きごとにある二次元コードから各種資料だけでなく、ワークシートや確認小テストといったページにアクセスすることができる内容となっている。		「日本国憲法と立憲的民主主義」に限らず、タブレット端末の活用できるページがなく、不十分である。		章毎にある二次元コードから、学習内容に関連する動画やウェブサイトにつながるようになっているが、活用できるページが少ない。
			平易な表現で、人名・地名・国名などの用語の使用は適切であり、必要な部分にルビが振られ、表記も統一したものとなっている。巻頭には「1時間の学習の流れ」が分かりやすくまとめられ、巻末には「現代の世界のようす」「日本の現代史年表」など豊富な資料が掲載されている。		事実が伝わりやすいよう、端的に表現されている。人名・地名・国名などは統一された表記となっている。重要語句や難しい内容についての説明が、同じページの側注に見やすく、詳しく掲載されており、自主的に学習ができるよう工夫されている。		漢字や仮名遣いが適切に使用されている。また、平易な表現で、人名・地名・国名などは統一した表記となっている。巻頭に公民を学ぶ意義が紹介され、巻末には「日本の伝統文化」の豊富な写真資料のほか、「戦後の日本と世界の主な出来事」が詳細に掲載されている。
5	表記・表現及び使用上の便宜等		写真や図表が大きく、適切な間隔を開け、編ごとに色別のインデックスを付けることで、学習箇所を確認しやすくなるよう工夫されている。小学6年生以上で学習する漢字には丁寧にルビがふられ、フォントや図表の色彩には色覚特性に配慮したユニバーサルデザインを採用しており、優れている。		写真や図版は光沢を抑えた優しい色を使い、文字は適切に大ききで、行間とのバランスがとっており、本文が読みやすくなるよう工夫されている。図表や地図等が大きく掲載されていて、分かりやすい。表中の文字は太く、大きく表示され、見やすくなっている。		写真や図版の色彩や鮮明であり、本文中の文字は大きく、適切な行間がとられており、読みやすくなるように工夫されている。図版は色覚特性を踏まえた判別しやすい色が使用されている。資料等の配置は、本文と見分けがつきやすいように幅がそろえられている。
6	印刷・造本等	○					

※ 着眼点ごとに、特に優れている教科書には評価の欄に○をつけています。

令和7年度使用教科用図書 調査専門委員会 調査研究報告書「各教科固有の追加調査事項」（種目名 社会・公民的分野）

発行者 事項	東京書籍		教育出版		帝国書院		日本文教		自由社		育鵬社	
	評価	特徴	評価	特徴	評価	特徴	評価	特徴	評価	特徴	評価	特徴
世界平和を確立するための熱意や協力への意欲を高めることができるよう配慮されているか	○	義足で歩行練習をする子どもと、NGOによる地雷除去作業の写真資料などを掲載し、「平和の実現のためには、国際協調による様々な取組が必要」と記述することで、紛争の被害や国際貢献について考える意欲を高めることができるよう配慮されており、優れている。		日本のNPO法人がケニアで井戸掘りの技術を伝える写真資料を掲載し、「21世紀の間には、先進国も含めた多くの国が水不足に直面することが予想される」と記述することで、人間の生命について考える意欲を高めることができるよう配慮されている。		国連世界食糧計画から提供された昼食を食べる発展途上国の小学生の写真資料を掲載し、「その活動が評価され、2020年にノーベル平和賞が授与された」と記述することで、国連の役割について考える意欲を高めることができるよう配慮されている。		日本の結核研究所で外国人研究者の人材育成をしている写真資料を掲載し、「日本政府が国際連合に設置した人間の安全保障基金」の意義を記述することで、日本の国際的な役割について考える意欲を高めることができるよう配慮されている。		JICAがウガンダで行う「ネリカ米振興プロジェクト」の写真資料を掲載し、「わが国も国際的な安全保障のための協力が求められている」と記述しているが、国際貢献を果たす人の様子が分かる写真資料が少ないため、意欲を高めるための配慮が不足している。		インドネシアの津波被害に日本が緊急援助物資を届ける写真資料を掲載し、「技術や知識などをも生かす国民参加型のODAへの転換がはかられている」と記述し、国際社会での日本の役割について考える意欲を高めることができるよう配慮されている。
日本国憲法は、国家や国民生活の基本を定めていることを理解できるよう工夫されているか		身近な事例を基に、憲法の意義を考えさせることで、互いの権利を尊重し、義務を果たしながら、平和で民主的な国家・社会の形成に参画することを理解できるように工夫されている。	○	人権に関する人々の営みが分かる写真資料を充たせることで、法やルールの遵守により人権や社会の安全・秩序が守られていることを深く理解できるように工夫されている。		人権に関する中学生の作文や、差別をなくす様々な取り組みの事例を基に考えられるようにすることで、「個人の尊重」の重要性を共感的に理解できるように工夫されている。		権力を乱用する王様の政治の漫画を用いることで、個人の尊重に基づいた民主主義と法の支配の基礎を学び、人権の意義と問題を具体的にとらえられるように工夫されている。		年表や資料を基に日本国憲法の成立過程を詳細に解説しているが、平等権の語句がなく、国内の差別や人権問題についての記述が他社と比べて極端に少なく、工夫が不足している。		各国の憲法を比較する資料や新聞記事などを基に、憲法の基本原則について具体例を挙げて紹介することで、幅広い知識と教養を身に付けられるように工夫されている。
少子高齢社会における社会保障の充実・安定化についての意義を理解できるよう工夫されているか		「世帯ごとの働き方の推移」や「高齢者の割合の推移」の資料に着目させることで、少子高齢社会を捉えさせている。また、高齢者支援、子育て支援から、社会保障の充実・安定化の意義を理解できるよう工夫されている。		「日本は世界で最も高齢化が進んだ国」「超高齢・人口減少社会」といった記述によって、少子高齢社会を捉えさせている。また、持続可能性の視点から、年金や医療保険の負担増の意義を理解できるよう工夫されている。		「過去と現在の生徒数の変化」を写真資料と比較することで、少子高齢社会を捉えさせている。また、「産業の成長が鈍くなることが予想される」と記述し、社会保障の充実・安定化の意義を理解できるよう工夫されている。	○	「年齢別人口の推移と将来推計」などの資料に着目させることで、日本の少子高齢社会を捉えさせている。また、女性・子育て・高齢者の視点から、社会保障の充実・安定化の意義を理解できるよう工夫されている。		本文中の展開によって、少子高齢化を捉えさせている。また、資料「子どもをもたない理由」に着目させ、国を豊かにする必要性を記述しているが、社会保障の充実・安定化についての記述が少なく、工夫が不足している。		「現在と5年後の公園の変化」を漫画を用いて比較することで、少子高齢社会を捉えさせている。また、少子化対策、高齢化対策の具体例から、社会保障の充実・安定化の意義を理解できるよう工夫されている。

※ 事項ごとに、特に優れている教科書には評価の欄に○をつけています。